トーク&カフェ　みどりが暮らしを面白くする

■子どもとのふれあい

次世代を担う子供にみどりの面白さ、楽しさを知ってもらうために意見を取り入れたり教育する機会を設ける。

- 赤塚公園を大切にするために、仲間に話をする。
- 将来の夢を持っている子供達の意見を取り入れて、子供達とともに活動する。
- 植物研究会で子供達に伝えて（教えて）いく。
- 子供と一緒にみどりを活用した遊びを行う。
- まちの中のみどりや花を調べて歩く。みどりのマップづくりも良い。

■家族／教育

子育て世代にみどりに関心を持ってもらうようにする。

- 家族（夫婦、親子）で取り組む。
- 「子どもの教育によい」から参加してもらう。
- 子育て世代から意見、関心が出にくいことが課題。

■暮らしの中でのみどりの楽しみ方

身近にみどりを感じられるような体感の場や楽しめる場をつくる。

- 崖線の林の道を歩くツアーをして、みどりの中の快適さを感じてもらう。
- 人の集まる場所で、体感を体験するために、住民の参加を促す。
- フラワーロード：「鉢植え作戦」からでもスタート。
- ベランダガーデンの講習会を行い、団地のベランダに花を一つでも出してもらい、下からみんなで眺める。
- 板橋区発のみどりのカーテンを徹底させる。
- 自分が楽しいことをやる。（花見、イベント、パーティー?）
- 「打ち水」を玄関周りで一斉にやりましょうというイベントを行い、涼しさを感じてもらう。

■みどりを楽しむ

歩いたりしながら、身近にみどりに触れる機会をつくる。

- みどりがきれいなところで、散策コースをつくる。
- 自然を大切にして体感する。
- まわりをよくみて散歩する。→気に入ったみどりの空間をみつける、ふやす。
- 自分たちの目に映るところをみどりにする。

■動く

楽しみ動く、自分から始め、うらやましいと思わせる。

- ピクニックをしてみる。
- 他人事にしないためにも「見て楽しむ」から「育てて楽しむ」へ。
- 面白そうと思ってもらう。自分も楽しむ。
- 自分の楽しさを伝え、1回でも参加してもらう。
- 食材となる植物等を育て、食べられるメリットと、育てる楽しさを実感する。
- まず家の中に好きな匂いの植物を置く。
- 周りもやりたくなるような、きれいでステキな庭をつくる。

■食べる

食べることをつうじてみどりを感じる。

- 食べられるみどりのカーテン→食べるイベント、五感で感じる。
- 自分で育てた野菜などを食べる。「美味しい」も感じ得をする。

■"自分の木"をつくる

マイツリーや地域のシンボルツリーをつくって、木に愛着を持ってもらう。

- 街路樹の下の土を個人的に使わせる。*（自分たちで花壇をつくる）*
- 地域にシンボルツリーを植えていく運動。
- マイツリーを植える、決める、つくる。

■知る

知る、学ぶ。興味を持ってもらうことが大切。

- 樹木の名前を覚える。
- みどりがあると得になる！ことを知る。エアコンがいらない、電気代が安くなるなど。
- まちや生活(地区)を知ること。
- 地域の人々に興味を持ってもらうような「入口」づくりをする。
- みどり(樹木)を地域のシンボルとしたい。

■心地よさ

地域のみどりの心地よさを感じて、自分のみどりと感じられるようにする。逆に、個人のみどりは地域のみどりという意識を広げる。

- 地域のみどりを「自分のこと化」して楽しんでいます。
- 心が疲れたとき公園のみどりから元気をもらっています。
- みどりの中にいる心地よさを感じる。
- 都会でみどりに触れられる楽しさ。（ニリンソウ自生地、守る会）
- みどりに関わることがおしゃれなことになるようにする。
- 個人のみどりを地域のみどりとする意識を広める。考え方の共有。

■身近な環境

自宅の庭や近所の美化など、できるところから始める。

- 身近な環境のゴミ拾い、草取り。
- わが家の庭の活用(緑化)
- 自分の庭をきれいにして、アピールします。道路に面するところなど。

■広げる

公共の場や地域のみどりからみどりの良さを発信する。

- 目に映る公共の場からみどりを増やし、それを見て少しでも良いと思ってもらいたい。
- みどりとふれあう機会を増やすために、地域のみどり関連の企画を増やす。
- 緑に関する活動を楽しく行っていることを伝え、広げる。

■公園のみどりと暮らしのみどりのつながり

公園のみどりやまちのみどりを一体化させ、つながりをつくる。

- 近所の公園のみどりと一体化させるしくみ。
- まちのみどりのつながりをつくる。

■みどりの活動に参加する意義

自分が行きたいと思える、楽しめるようにする、癒やされるといったことがみどりの活動では大事。

- 町会の有志の方々で楽しんでいる。
- 地域のみどりに自分が行きたいと思うことが大事。
- 自分の健康のため、楽しんでいる。
- みんなで好きなみどりを植え、
- 花を見ると癒やされる。

■生きがい

個人はみどりを大切に思っているはずなので、それを広げていきたい。みどりを通る人に褒められる楽しさは生きがいになる。

- 一人一人、みどりは大事と思っているはず。これをもっと大きくするためには、やはりリーダーが必要。
- 見てもらう機会を増やす。
- 自分の庭の花、みどりを通る人に褒められる楽しさ。

■ボランティア体験・参加

今あるボランティア活動に参加したり、みどりの効用を体感するなど、実体験を大切にする。

- 赤塚公園の「みどりの手」のボランティアに参加する。
- 緑化の効用を実体験する。
- 公園の手入れ活動に参加する。

■活動のコツ

強要しない活動が長続きする。

- 参加を強要しないことが大事。長く続いてほしいから。
- 一人でも参加しやすい仕組みづくり。
- 家族や夫婦での参加のしくみづくり。

■みどりに関わりやすい環境づくり

負担感なく、楽しく活動できるようなしくみづくりや、緑化をすることで助成や補助が出るような支援があるとよい。

- 厳しく制約せず、自由な参加でよしとし、参加した場合は時間をみんなで決めて守り行う。
- とにかく参加する人たちが毎回参加する気になるような楽しくなるような意見を取り入れる。
- 地域の緑化が経済的に利点ありと実感する。

■しくみを変える

住宅開発に合わせて、みどりが減らないようにする制度づくり。

- 新しい家が建てられるとみどりがなくなる。制度の改革。
- 開発時に区(みどりと公園課)がひと言(ビジョン)を言えるように。(全体のイメージ)
- 区からの金銭援助がほしい。(整備、活動のため)

■区への要望

グループの高齢化や活動の課題を解決するために、区も動いてほしい。

・　グループの高齢化で心配。若い人材が確保できない。
・　具体的な状態を見せる。（絵、デザイン化など）

■板橋区は“みどり”が魅力

板橋区の魅力であるみどりをもっと発信する。

・　東京の田舎、板橋区の魅力である自然の「素晴らしさ」を強調する。